

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791400047		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	グループホームみなみ 1F		
所在地	福島県本宮市糠沢字南箕内102-3		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	令和4年6月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中でも工夫して外出や、事業所内だけでの生活にならないように工夫しています。ご家族様との関りも途切れないよう、オンラインでの面会や、12月からは条件付きでの面会制限の緩和を行いました。以前のような地域との関りができにくくなってきていますが、地域の清掃活動への参加など可能なものは引き続き行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 食事は利用者にとって喜びや楽しみであることから、献立には利用者の好みを取入れ、季節感のある食事を提供している。職員間で話し合いながら利用者の持っている能力を活かし、下準備・盛り付け等、食事関連の作業の中で役割づくりがされている。
 2. 事業所では、感染対策を取りながら、季節ごとにお弁当持参でドライブに出かけたり、利用者の誕生会に家族を招待したり、気の合う利用者同士がお互いの居室を行き来したり、安心して自分のペースで生活出来るよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議時には必ず全員で理念を唱和し、共有、実践に繋げています。勤務表に理念を載せて常に確認できるようにしている。	地域密着型サービスの意義を反映した法人基本理念を定め、事業所の玄関等に掲示してある。理念実現のため毎年目標を作成し、毎月の全体会議等で唱和し、職員間で共有しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に利用者様と職員が参加し、地域の清掃活動に参加している。また、小学校の行事にも参加しています。中学校のボランティア受け入れもおこなっている。	コロナ禍前は、地域行事に利用者や参加したり、中学生の体験学習の受入をしたり、事業所に地域の人を訪れたりする等、双方向で交流を行っていた。また、散歩や買い物で日常的に地域との交流もあったが、現在、コロナ禍にあり、出来る事が少なくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域の認知症ケア連絡協議会・情報交換会に出席し情報交換や発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	毎回、行事関係・事故ヒヤリはっと等の報告をし、ご意見をいただいております。また、季節の行事などもアドバイスいただき生活に取り入れています。	コロナ禍前は、運営推進会議を定期的に開催し、事業所の現況・活動・事故・ヒヤリハット・評価結果等の報告をし、委員から意見を頂き、サービスの向上に活かしていた。現在、コロナ禍で会議が開催出来ないことから、2ヶ月に1回、会議用の書類の作成を行っているのみである。	委員全員が集まった会議は開催出来なくても、作成した書類を見てもらい意見をもらうことは出来るため、今後は、書面での開催をして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者へ新規入居に当たっての情報の確認や、事故や事業所内での変更等での連絡や相談を行っている。	行政担当者へは評価結果や事故報告を提出したり、生活保護受給者の手続きを行ったり、報告・相談をしている。また、不明点・疑問点があれば、いつでも気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、ユニット入口は常に解放しており、夜間の防犯対策以外は施錠をしない取り組みを行っています。	法人の身体拘束排除のマニュアルをもとに、身体拘束の無いケアに努めており、職員研修も行われている。また、毎月、不適切ケアチェックリストにより、身体拘束をしていないか確認している。職員の見守りと対応で玄関の施錠は夜間のみである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の際に不適切ケアのチェックを行い、職員の言葉遣いや態度などから、虐待に発展しないよう意識づけと確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が付いておられる利用者様がおりましたので関わりを持ちながら学ばせて頂きました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を読み上げ、質問にはよりわかりやすく説明をしています。 また、介護報酬改定や料金変更が発生した際は同意をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時等、ご家族様と話す機会を作り、ご意見や要望を伺うよう努めています。 ご家族様に満足度アンケートを実施しました。	家族の面会時や電話連絡時は、利用者の情報を伝え、意見を交換するよう心がけている。聞き取った意見や要望は運営に反映させている。今年度から法人で家族の満足度アンケート調査を行い、結果は集計し事業所に伝えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は個別に面談を行ったり、代表者も会議の際に職員の意見を直接聞くなどし検討しています。	毎月の全体会議には法人代表等が参加しており、職員の意見を聞き取っている。また、年に2回、個別面談を実施して職員の意見の把握に努めている。把握した職員の意見や提言等を、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度の全体会議には、代表者は必ず出席しています。勤務表も確認されており細かくアドバイスをいただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で内部研修を定期的に開催しています。 経験年数にあわせて、外部研修を受ける機会をもうけています。また、代表者による職員への研修も行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へ行事の手伝いや、日頃の連携で情報交換をしたり、協力関係を構築しています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様やご家族様より生活歴を伺い、職員間での情報を共有しより良い関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安・要望を伺い、わかりやすく説明をし、安心できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様にとって必要なサービスは何か、現状を把握し説明させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が、自分の居場所として過ごしていただけるよう、役割を持っていただきメリハリのある生活を送れるよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはお部屋でゆっくり過ごしていただけるよう、お茶を出したり、お部屋作りにも配慮しております。 本人様のご家族様への要望等もお伝えし、共に支え合える関係を築くよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで面会が途切れていたため、オンラインでの面会を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの生活歴を把握することに努めており、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。誕生会に利用者の家族にも参加してもらったり、利用者の希望に沿って出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話の橋渡しをしたり、席替え等で良好な関係作り支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙を出したり、行事のご案内をさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を表出できる方には、暮らし方の希望や意向に関して尋ねて把握するようにしています。意思表示の困難な方に関しては、日常生活の中で見せる表情・行動・生活歴・家族からの情報により、本人本位の思いや意向を把握するように努めています。	日常ケアの中での些細な会話から利用者の意向把握に努めている。また、困難な場合は表情や仕草等から察したり、家族から意見や情報を得て、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査だけでなく、入居後も継続的に普段から利用者より、家族面会時に生活歴や暮らし方、サービス利用までの経緯等の把握に努め、現在の利用者の生活に生かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活状況、食事、排泄、健康状態等を観察した上で記入できる記録用紙になっており、総合的に把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成の際、利用者様・家族の意向を日頃の関わりの中で思いや意見を伺い、会議で話し合い、計画書の見直し、ケアの統一を図っています。	利用者・家族の意向、利用者の身体状況をもとに作成した生活支援計画の支援内容に沿ったケアを提供している。ユニット会議での職員の意見を取り入れ、計画作成担当者が介護計画を作成しているが、一日の生活記録シートに支援内容の実施ごとの記録がない場合が見られた。	一日の生活記録シートには生活支援計画の支援内容の実施状況を記録して、記録を基にモニタリングし、ケアに反映させることが重要である。そのため職員は、生活支援計画を理解し、個別記録を適切に残して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の中の1日の中で、良かったこと・発見・気づき・声の項目を記録するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人に必要な介護用品等があった際には、福祉用具のお試し利用を事業所で行い、本人に合うものを提供させていただいたり、ご家族様へ提案させていただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々に気をかけて頂き、交流を通じて協力者も増えつつあります。近所の方に畑の手入れを手伝ってもらったり、農作物のおすそ分けをいただいたりといったこともあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族様と主治医との信頼関係は良好で、急変時には速やかに対応して頂いています。	入居者全員が協力医の月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を受け適切な医療受診の機会がある。訪問診療の前日には医師より問診用紙が届き職員が記入しFAXで送信しており、結果は電話で家族に報告すると共に生活記録表に記入し職員間で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連携により、適切な支援を受ける事ができ、主治医との連携もスムーズに行えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会、病院の相談員とも連絡を密にし、退院の調整や受け入れ準備をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や、身体状況の変化が見られた場合など、その都度ご家族様には確認をしています。主治医を交えて、ご家族様の現在のご意向を伺い、対応させて頂いています。	利用開始時に重度化した場合や終末期の在り方について指針を説明し同意を得ている。重度化した場合は主治医から家族に状況の説明があり、職員は看護師に相談しながら家族の希望に沿って、看取り支援を行っている。また、事業所では看取りの研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時に備え、利用者様の情報を整備してあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害時訓練をし、安全に避難できるよう訓練をしています。水害に関しては、市のハザードマップで土砂災害、冠水注意箇所を確認しています。	今年度は2回、火災を想定し、利用者も参加した避難訓練を実施している。訓練を振り返り、職員の理解不足と思われる部分はすぐに職員全員で確認している。備蓄は準備されており、3月に消防署立ち会いの避難訓練も予定しているが、コロナ禍以降、地域の協力体制による訓練は実施されていない。	職員は、火災以外の災害時であっても、昼夜を問わず、利用者が避難できるように訓練を実施して欲しい。また、地域の協力を得た訓練も実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いは必ず敬語でお話しすることを徹底しています。介助に入る際も必ず声をかけてから行うよう心がけています。毎日、言葉・態度の振り返りを行っています。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない接遇に努めている。接遇研修も行い、利用者へは敬語で声掛けをするように努めている。日々言葉遣いや、態度の振り返りをして適切な支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意向を伺いながら、希望に添うよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで、居室やホールで自由に過ごされています。自己決定が難しくなっている方に対しては、なるべく皆さんと共に時間を共有できるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事のときにはお化粧をしたり、普段と違う洋服を着ていただいています。食べ物が付いたままのときは、すぐにお着替えしていただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	下ごしらえを行っていただいたり、メニューを考えて頂いたり、一緒に取り組めるようにしています。食事職員と一緒に、会話をしながら楽しく過ごしています。	職員は地域からの差し入れ野菜等を利用し、利用者の意見を聞きながら献立を考えている。野菜の皮むきや野菜切・盛り付け・食器洗い等の作業を利用者にも手伝ってもらっている。外出の際は手づくりのお弁当を持参したり、誕生日には好みのご馳走を作るなど食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせた食事形態にして提供しています。水分は摂取量が分かるよう記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っていただき、介助が必要な方には職員がしあげ磨きをし清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの希望やしぐさが見られた場合は、すぐに応じるようにしています。	排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握し、定時誘導と利用者の表情や仕草等の排泄サインを見ながら、羞恥心と自尊心を損なわない声掛け・誘導を行いトイレで排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や、体操などを行ないながら、なるべく便秘にならない様に支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせた回数や時間で提供しています。またバイタル等体調を考慮しながら入浴の確認をしています。	入浴は、本人の希望やバイタル等を確認しながら支援している。2名介助が必要ではあるが利用者全員が浴槽に浸かることが出来ており、ゆったりとした入浴時間を楽しめている。また、季節感が感じられるように菖蒲湯等も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間はそれぞれのペースで行っています。介助が必要な方には、本人の意にそった支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化は速やかに主治医に報告・相談をしています。薬の変更の際は、職員全員に変更理由・用法・容量等を詳しく周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	関わりを持ちながら、若い頃の話や要望を伺い、その方の誕生日には思い出を再現したり、楽しみに繋がるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではありますが、季節のドライブなど、三密避け、外出できる機会を設けています。	コロナ禍ではあるが、天気の良い日は事業所近隣を散歩している。また、コロナ対策を取りながら、みずいろ公園・二本松の道の駅や神社・大玉村のカルチャーパーク・猪苗代町等にお弁当持参でのドライブ等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現在金銭の持ち込みをご遠慮いただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている入居者様が、電話に気づいていない際に声をかけたり、折り返し電話できるよう対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、季節に合わせた壁飾りで季節を感じて頂く工夫をしています。また行事の際の写真飾るなどしています。	採光と空調が整った共用空間には、くつろげる椅子や畳に炬燵を置く等、整えられている。壁面には、手づくりの日めくりカレンダーや熱海好きな利用者の誕生会のために壁面いっぱい熱海の風景や職員手づくりの熱海城も飾られており、利用者の満足感に繋がる工夫がされている、	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置や、席替え等で利用者様同士の交流や人間関係に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅で使用されている家具等を持ち込んで頂いたり、必要と思われるものをご家族様に相談しながら、居心地の良いお部屋になる様配慮しています。	居室にはベットとクローゼット、洗面所とトイレが設えてある。利用者は家族と相談して自宅で使用していたテレビ・テーブル・ソファ・カレンダー・シルバーカー・家族の写真・造花・読破したい好きな作家の蔵書が80冊等々、自宅と同じ環境で過ごせるよう居心地良い居室の整備がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかるように入口にわかりやすくプレートや表札をかけています。		